加島五千石総鎮守

米之宮浅間神社　社報

令和3年
夏号
7月1日発行

祈り

疫病鎮静終息祈願

本格的な夏に入り、蒸し暑い日が増えていく季節となってきました。夏といえば、夏祭りを思い浮かべる方が多いかと思いますが、夏祭りには、祈りが込められています。

日本では古来、稲作文化が盛んで稲作の無事を祈り、様々な祭祀が営まれてきました。特に夏のお祭りでは、稲の生育に害を及ぼす害虫から稲を守ることを祈る虫送りの神事、台風をはじめとする風水害がないことを祈る風除けの神事が行われます。これらは『日本書紀』にある、天照大御神さまから稲穂を授けられ、子々孫々国民が飢えることがないように、稲作を発展させよとの「斎庭の稲穂の神勅」の実践であり、そこには祖先の祈りが受け継がれています。

また、『日本書紀』には、度々国中に疫病が流行し、その度に天皇をはじめ人々が神に祈りを捧げ、困難な状況を克服した様子が記されています。さらに中世以降の都市部では、気温や湿度が上昇する夏への季節の変わり目に流行する病等を鎮めるために疫病退散・厄除けの祈りが捧げられてきました。

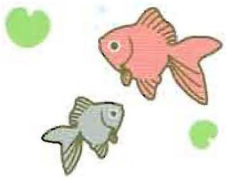
現在、一年半以上に亘り自粛が続くコロナ禍の中、不安な気持ちを抱えていらっしゃる氏子・崇敬者の方々が多いと思います。なかなか御社頭に集い、賑々しく祭を行い、共に祈ることはできませんが、日々神社では神職がコロナ禍の終息を祈念しております。「祈り」は社会の安寧や心の平穏に必要不可欠なものであると思います。氏子・崇敬者の皆様におかれましては、先人たちが「疫病鎮静」を祈り、心をひとつに乗り越えてきたことに思いを致し、新型コロナウイルス感染症の終息と元通りの生活が送れることを願い、それぞれの神棚・お神札に手を合わせて神様へ祈りを捧げましょう。

茅の輪くぐり

六月の「大祓」では、「茅の輪」をくぐると病にかからず健康に過ごせるといわれています。これは、困っていた武塔神（スサノヲノミコト）という神様を蘇民将来が貧しいながらも精一杯もてなし、武塔神から言われた通り「茅の輪」を身に着けたことで病から逃れられることができた、というお話がもとになっています。蘇民将来にあやかって夏を元気に過ごしたいとの願いが「茅の輪くぐり」には込められているといえます。

二十四節気について「立秋」八月七日

一年の太陽の動きを二十四等分し、相応する名称を付したものを「二十四節気」といい、そのなかで、「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のことを「四立」といいます。立秋は秋の始まりとされる日で、まだ気温は高い時期ですが、この日を過ぎると日も次第に短くなり朝夕には秋の気配を感じられるようになるといいます。近年は、「立秋」以降も猛暑が続くことがありますが、この日を境に、送る挨拶状は「暑中見舞い」から「残暑見舞い」となります。



神社の豆知識

罪・穢について

神道でいう「罪」とは「天津罪」「国津罪」の二つに分類されます。天津罪は、農耕を妨害する行為、国津罪は人を傷つけるなど社会の秩序を乱す行為を意味します。このことは、平安時代に編纂された法律書である『延喜式』の中にある『大祓詞』に記されています。「穢」とは、自らの行為による「罪」とは異なり、死や病など受動的に起こる現象で、「禊」を行うことで浄化することが出来ると考えられていました。

このような誰もが日常的に犯してしまう罪・穢に対し、常に慎みの心を持ち身体を清浄な状態に保つ為に、神事の前には必ずお祓いが行われ、六月と十二月には半年間の罪・穢を祓う大祓が行われます。

神社からのお願い

神社では感染予防に対し様々な取り組みを行なっています。是非清々しい気持ちで神社にお参りして戴く為に、皆様におかれましても感染症対策に十分に気を付けて戴くようお願い申し上げます。

神社や神道について詳しくはこちらのQRからご覧ください。

当神社では、家内安全・身体健全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・旅行安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病気平癒・心願成就・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。
いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。ご祈願についてのお問合せは左記連絡先まで

連絡先　米之宮浅間神社　社務所
〒四一六-〇九〇六
静岡県富士市本市場五八二
☎〇五四五(六一)〇八一七
FAX〇五四五(六一)〇八二九